

● 授業

留学期間の2学期目になるので先学期よりは難しい授業に挑戦してみようと思った。ここでは先学期の授業を振り返りつつ、今学期でどんな新しい授業を取って、どのような新しい挑戦をしたのかを紹介する。

北京大学の授業は大変面白く、学ぶことが多かった。僕は英語よりも中国語の方が得意だったため、中国語の授業をメインに取った。しかし、苦手な英語から逃げることも嫌だったので、先学期よりも多い2科目の英語の授業を取った。また北京大学のみならず、中国の大学全般は、いわゆる「潜り」に対して寛容である。それどころか、大学側は大歓迎という雰囲気であると感じられた。そもそも「潜り」は中国語で言うところの“旁听”であり、日本語に直訳すると「傍で聞く」という意味である。つまり、日本語の「潜り」にはけなす意味合いがあるが、中国語の“旁听”は中立的な意味合いである。大学側が学生の知的好奇心をよく評価しているのがわかる。僕が今学期履修した科目は7科目であるが、潜りも含めると最終的には9科目を取っていた。また自由に潜りができたため、短期の潜りも含めると一時期は週に12科目を受けていた。

ちなみに僕は小さい頃、中国で3年間暮らしたことがあり、その間は現地の小学校に通っていたので留学する前から中国語の基礎はすでにできていた。東大の入試も中国語で受験し、入学後もインタークラスに入って既修中国語を取っていた。そのため、留学するにあたって言語面の不安は特になかった。実際、授業もほとんど聞き取れた。よって授業も中国語の授業をメインに取った。

以下、最終的に取っていた7科目（潜りの授業は含まず）を紹介する。

◎中国政治概论/月7・8・9/中国語/200人/国際関係学院

「概論」という名前だがかなり詳しく中国政治を教える。中国共産党がいかに関政治を掌握し、事実上の一党独裁体制がいかに関運営されているのかを教えてくれる。日本人からすると、「こんなことがまかり通っていいのか!？」と思うような「異質」な政治体制である。また教科書を読んでいると「自治」や「自由」と呼ばれるものがいかに名ばかりなものかがしみじみと伝わってくる。また教授にも大いに問題がある。教授自身は客観中立の立場に立って話しているつもりだが、その話し方や態度からは全く客観中立の立場に立って話しているとは思えない。中国を崇め奉り、中国共産党を崇拝している人間だと思った。授業では毎回必ずいかに中国政治が優れているか（ついでにいかにアメリカ政治がひどいか）、いかに中国共産党が優れた政治体制を運営しているか、いかに中国が偉大な国へと発展したのかをアピールする。そして教授が中

国の偉大さをアピールすると学生たちも躍起になって大きな拍手を起こる。あまりにも露骨なアピールに毎度うんざりするのである。だが、これが「中国政治」なのだと理解した。この授業では決して客観中立的な中国政治は学べないが、「中国人から見た中国政治」は学べるのである。



↑授業でプレゼンテーションを行う佐倉くん

◎東北亚政治经济与外交/火1・2・3/中国語/80人/国際関係学院

主に東北アジアの政治と外交について教えた。政治について学べると思ってこの授業を取ったが、いざ授業を受けてみると自分が想像したのと違って東北アジアの歴史についてかなり解説していた。もちろん東北アジアにおいて日本は主要な地位にあるのでこの授業では日本についてもたくさん触れた。だが、僕は大学受験で日本史と世界史を死ぬほど勉強したので、授業で触れた東北アジアの歴史に関してはほとんどがすでに学んだことのある内容で知っていることが多かった。この授業において東北アジアの政治関係や外交関係についてあまり学べなかったのは残念だった。

◎社会冲突与管理 /火5・6/中国語/120人/心理学院

心理学の授業である。普段の人間関係や組織においてどのように円滑な人間関係を築けるかを教えてくれた。これはかなりいい授業だった。社会心理学、行動心理学や組織心理学の知識を交えてどのように人を管理していくのかを解説した。

◎当代韩国社会/水5・6/英語/8人/外语学院

韓国現代社会を英語で教えてくれた授業。教授は韓国の高麗大学の教授で、教授が韓国にいてオンライン通信の中継で授業が行われた。現代韓国社会における経済、宗教、教育、性、ポップカルチャーなど、様々な面について大まかに教えてくれた。僕は2年ほど韓国語を勉強していて韓国にもとても興味があったのでこの授業で学ぶのはとても楽しかった。

◎大学生心理健康/木5・6/中国語/200人/心理学院

大学生に密着した心理学の授業。主に大学生が抱えがちな心理的な問題を扱って色々な心理学的な知識を教えてくれた。

◎中国教育及其文化基础 /木7・8・9/英語/20人/教育学院

中国の教育の歴史や現在の教育体制、また中国の大学受験試験「高考」について英語で教えてくれた。先生の話す英語にかなり中国語訛りがあったので聞き取りに苦労した。学期中に一度フィールドワークとして北京にある観光名所の教育歴史施設を訪れた。

◎大学生心理素質拓展/木10・11/中国語/25人/心理学院

「大学生心理健康」とはまた趣旨の違う心理学の授業。大学生の心理的な素質を開発して発展させることを目的とした授業。授業では毎回教師とテーマが変わるというオムニバス形式の授業。自信の持ち方、プライドの向き合い方、性心理、恋愛、ストレスの処理の仕方など興味のあるテーマがとても多く、かなりためになった授業。

● 中国人について

この1年間の留学において様々な中国人に出会った。良い人もいればもちろん悪い人もいた。友達思いの人や自己中心的な人、勉強熱心で真面目な人、傲慢な人など様々。総じて思ったことがいくつかある。まず、中国人は総じて客観中立的な立場に立つのが苦手であると感じた。自分の信念や考えを持ち、それを貫くことは確かに大事である。だが、建設的な議論を進めていく上で一度自分の立場を離れて客観中立的な立場に立つことは極めて重要である。僕が出会った多くの中国人は考え方が保守的で思考が硬く、融通がなかなか利かなかった。

さらに、中国人は与えられた情報をなかなか疑わないと感じた。メディアが伝えるニュースや授業で先生が教えることをそのまま鵜呑みにすることが多く、僕から見て明らかにおかしいこともなぜか全く疑わずに受け入れてしまうのである。ここからいかにクリティカルシンキングが大事かがわかる。

そして、自分の意見を持たない人が多すぎる。これは主に北京大学の学生生活において感じたことである。授業で先生が話した意見をそのまま自分の意見とし、世の中でまかり通っている様々なおかしいことにあまり意見を提起しない。自分の考えはないのか、自分の信念はないのか、と度々疑問に思うことがある。

なお、これらは決して中国人に対する偏見ではなく、僕がこの1年間の留学を通して多くの中国人と触れ合うことによって抱いた中国人への印象である。自分の独断が多少含まれていることを大目に見ていただきたい。

● スケート

北京大学にある未名湖という湖は冬になると凍り、その上でスケートをすることができる。毎年凍るみたいで昔はスケートの授業も行われていたとか。僕も2回スケートしに行った。小さい頃に何度かスケートをしたこともあり、今回もすぐにコツを掴んで楽しく滑ることができた。2回しか滑らなかったが自分でもびっくりするくらいスケートが上達した。今度ぜひ EALAI の皆さんに僕の滑りを見せたいと思う。



コツとしては滑るときに片足に体の重心を置くことである。一枚の鉄の板に体の重心を乗せることに確かに恐怖心はあるが、慣れると結構安定するのである。また滑るときは逆ハの字型滑るように意識しよう。まずは右斜め前に向かって滑り、次は左斜め前に向かって滑り、また右斜め前に向かって滑る。これをスムーズに繰り返せるようになるとかかなり上達する。

● 悪い人

これは決して中国や特定の人たちへの批判ではなく、僕がこの1年間を通して出会った人たちから感じたことがある。世の中にはたくさん悪い人がいる。悪い人たちからひどい仕打ちを受けることが多々ある。そういう人たちに対してひどく憎むことがある。自分のことばかり考え他人に思いやりを持たない人、思考が凝り固まっていて人の意見を認めない人、自分の考えをひたすら他人に押し付ける人、他人に責任転嫁する人、形式ばかりにとらわれて物事の本質を見ようとしない人。そういう人を僕は「悪い人」と呼ぶ。このような悪い人は中国ばかりではなく、もちろん日本など、どの国にもいる。今回の留学を通して「悪い人というのはどこの国にもいるんだな」

と強く思った。こういう悪い人たちにはどのように向き合うか、どのように対処するべきかはまだまだ今後の課題であるが、この一年を通してわかったことがある。悪い人には正しい論理や常識を説いても意味はない。悪い人には悪い人に向き合い方が必要である。時には戦い、また時には戦わずに逃げることも大事である。そのような人たちと関わっても何の意味もなく、自分を貶めることでしかない。

- 音楽

留学する前から中国の音楽にはかなり興味を持っていた。留学中も時々bilibiliで中国の音楽を検索してよく聞いていた。中国人の友達ともたまに大学近くのカラオケに行き歌っていた。「中国には良い歌がこんなにもあったんだ!」と思った。ただ一つ残念なのが、留学中にもっと中国人の友達におすすめの音楽を聞けばよかったと思ったこと。これからもたくさん中国の音楽を聴いて、たくさん良い歌を半券していきたい。

- ワイマイ

先学期の報告書でも触れたが、中国のワイマイシステムは本当に素晴らしいと思った。前回の報告書である食事をきっかけに学校の食堂が嫌いになってそれ以来夜はワイマイを頼んでいると言ったが、今学期も最後まで夜はワイマイを頼んでいた。その日に何を食べたいかの気分で好きな食事を注文できるので本当に便利だと思ったので皆さんにもおすすめしたい。利用するときは割引に注目して頼んでみると良い。

- その他に感じたその他のこと

間違いを犯したときは「ごめんなさい」と言い、良くしてもらったときは「ありがとう」としっかり言うことが大事だと改めて感じた。多くの中国人と触れ合う中で「なんでこの人ごめんなさいって言わないんだろう」、「なんでこの人ありがとうって言わないんだろう」と感じる事がとても多かった。一言言うだけで人間関係は円滑になるし、言われた相手も嬉しくなるのにそれを言わない人が多い。そんなときにふと自分を振り返り、果たして自分は普段からちゃんと言っているのかとじっくり考えてしまった。「ごめんなさい」と「ありがとう」は簡単な言葉だが、それを相手に伝えることは大事である。今の自分を振り返り、改めて大事にしっかり言おうと思うきっかけになった。ダメなことをしたときはちゃんと謝ろう。良くしてもらったときはちゃんと感謝しよう。子どもでも簡単にわかることだ。大人ならなおさらできないとおかしい。

留学していたときに2度、突然の激しい頭痛に襲われたことがある。全く動けないくらい痛くて、頭が割れるような痛みだった。そんなときに日本人留学生に助けを求めたところ頭痛薬をくれた。日本製だった。それを飲んでしばらくしたら頭痛は治つ

た。頭痛はいつどこで発症するかわからない。普段から頭痛薬を持ち歩くことが大事だと感じた。

中国で食べたいろんな料理の中で一番美味しいと感じたのが「麻辣香鍋」である。めっちゃうまい。めちゃくちゃご飯が進む。これにさらにビールを合わせると最高なのである。ちなみに一番美味しいと思った麻辣香鍋は農園食堂二层的麻辣香鍋。学校の食堂なのでいっぱい頼んでも値段はとても安く、味も抜群に美味しい。ちなみに方便面を合わせてトッピングすると良い。美味しいよ。ちなみに一人では食べきれないことが多いので友達を誘って一緒に食べると良い。学校の食堂は勝手にビールを持ち込んで飲んでも大丈夫なので是非ビールを合わせて飲もう。ビールと麻辣香鍋の組み合わせは最高だ。おすすめの具材は五花肉，魚豆腐，方便面，土豆片，香肠，羊肉である。ビールは近くに売店かコンビニで買える。中国のビールは格安で買えるので本当に素晴らしいと思う。